

国 運 審 第 4 3 号
平成28年12月20日

国土交通大臣 石井 啓一 殿

運輸審議会会長 原田 尚志

答 申 書

バニラ・エア株式会社からの混雑空港運航許可申請について

平28第9002号

平成28年11月22日付け国空事第4646号をもって諮問された
上記の事案については、審議した結果、次のとおり答申する。

主 文

バニラ・エア株式会社の申請に係る混雑空港（関西国際空港）を使用して運航を行うことについては、許可することが適当である。

理 由

1. 申請者は、関西（関西国際空港）～成田（成田国際空港）間及び関西（関西国際空港）～函館（函館空港）間において国内定期航空運送事業を経営するため、本件申請を行ったものである。

申請者の運航計画によれば、関西～成田間の路線については、平成29年2月18日からエアバス式 A 3 2 0 - 2 0 0 型機を使用し、1日2往復の運航を行おうとするものである。また、関西～函館間の路線については、同年3月18日から同型機を使用し、1日1往復の運航を行おうとするものである。

2. 混雑空港を使用して国内定期航空運送事業を営もうとする本邦航空運送事業者は、混雑空港ごとに、当該混雑空港を使用空港とする路線に係る運航計画を記載した申請書を国土交通大臣に提出することとされており、国土交通大臣は、航空法第107条の3第3項各号のいずれにも適合するものであると認めるときは、同条第1項に基づき、当該混雑空港を使用して運航を行うことについて許可をすることとしている。なお、その許可の基準は以下のとおりである。

- (1) 運航計画が航空機の運航の安全上適切なものであること
- (2) 競争の促進、多様な輸送網の形成等を通じて利用者の利便に適合する輸送サービスを提供するものであること等当該混雑空港を適切かつ合理的に使用するものであること

3. 当審議会に提出された資料、所管局から聴取した説明等に基づいて検討した結果は次のとおりである。

(1) 本件申請は、次のとおり上記2. の要件を満たしている。

① 関西国際空港においては、航空機の運航の安全を確保するための発着規制として、1時間の発着回数を45回(うち出発回数32回、到着回数25回)とする等の発着調整基準が設けられている。

申請者の運航計画に定める関西国際空港での発着は、他の航空運送事業者を含む時間帯ごとの使用状況等から判断すれば、この発着調整基準に合致するものと認められる。

また、申請者の運航計画は、関西国際空港における航空機整備等の所要時間及び成田国際空港及び函館空港の航空保安業務提供時間からも妥当なものであり、前記発着調整基準に反するおそれはないものと認められる。

以上により、申請者の運航計画は航空機の運航の安全上適切なものと認められる。

② 関西～成田間の路線では、現在、ジェットスター・ジャパン株式会社が1日4往復、P e a c h ・ A v i a t i o n株式会社が1日3往復及び春秋航空日本株式会社が1日1往復の運航をそれぞれ行っている。また、関西～函館間の路線では、現在、運航している会社がない。

申請者によるこれらの路線の運航は、他の本邦航空運送事業者の運航とあいまって、一層の多頻度運航と競争の促進を図るとともに、航空路線のないところに新規に就航して多様な輸送網の形成を図ることを通じて、利用者の利便の一層の向上に寄与するものであること等を勘案すると、本件申請は関西国際空港を適切かつ合理的に使用するものであると認められる。

(2) 以上に掲げる理由により、本件申請は航空法第107条の3第3項各号に掲げる基準に適合するものとして、同条第1項に基づき、国土交通大臣が本件申請を許可することは適当であると認める。